
誤報～医学部は合格したのか？

sadakun_d

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誤報 医学部は合格したのか？

【Nコード】

N2145W

【作者名】

sadakund

【あらすじ】

大学受験合格のインパクトのある医学部。

最高峰に位置するのが

理？

合格ならば天下に名だたる東大医学部の学生ではないか

不合格は…

シヨボいことだが医者にはなれず

理？？～受験競争

厳寒の冬空であつた。

カサカサっ

鉛筆が答案の上を走る

カサカサ

ここは東京大学の本郷本部。

サラサラ

コツコツ

今は全国一斉に国立大学入試（本試験）の真っ最中である。

キーンコォーン

カーンコン

ふう～

終わったぞ

大学入試合格を確信した受験生は心地よい脱力を感じる。

「ハイツ時間です。（解答を）やめてください。筆記用具をしまい

裏返してください」

壇上からの試験官は張のある声で受験生に伝えた。

「ふう〜長い長い入試の三日が終わったあつ〜」

受験生は入試三日の最後の答案を書き上げる。氏名と受験番号を確かめ提出をする。

「ケアレスミスで（理？を落ちて）また来年なんてことは金輪際ごめんなさいだぜ」

受験生たちは理？（医学部医学科）の名が印字される答案用紙を静かに眺めた。

「終わって見たらあつけないなつ理？」

苦手な英語に不安感がありだ

長文読解や英文法の細かい設問に四苦八苦してしまう。

「得意な数学・物理は満足する。他の受験生とは大きく差がつくことを祈ります」

理？特有な難解物理はまずまずの出来だった。

化学は得意分野がズバリの中！

だが

医学部はレベルが高い。

合格者の全員が全員とも高い得点になりがちである。できて当たり前の世界だと諦めねばならない。

「医学部の倍率は4倍なんだけどさ」

三日の受験期間に多少の欠席を見た。だが総合的に合否に影響はない。

「中高6年一貫の苦勞がいよいよ報われる！この理？受験が俺の集大成というわけだ」

試験官に退場を言われ受験生はサアツと正門に向かう。

同じ進学校のクラスメイトや卒業生（浪人）が引率の高校教師の元を集まる。

「どうだ？手応えはあったか」

ネツクは英語か。

「なんとか数学で挽回していますように祈ります」

クラスメイトは互いにライバル。卒業生は医進予備校在籍同士で輪ができる。

「全体的に昨年より問題は難しい感じた。受験生の質もアップしたな」

理？の合否（分岐点）は7割正解じゃあないか

いかなる大学入試も5割〜6割が合格点といわるが

70!

「先生ちょっと待ってくださいよ。60弱ぐらいでもトップですよ」

東大の他の理系や文系は5割ちょっとで合否ラインに引っ掛かかると予備校は判断をしている。

「慶大医や慈恵医より数学は難しい感じでした。70はいらないのでは」

引率教師を中心に受験生が合否を検討する。

大半の理?受験生は私大医併願者である。滑り止め医大はたいいてい合格している。

医学部にはいける身分ゆえ話の内容に余裕綽々である。

「さてみんなご苦労様。今年度は終わった終わった」
受験が終わればかわいい教え子。ねぎらいたい。

「あとは喜びの合格発表を待つだけ。今から遊ぶだろつなあっお前らは」

定員90人(理?)に毎年15〜20人前後の合格者を輩出している進学校である。

日本中の進学校が覇を競い理?という90人枠に狙いを定めている。

ひとつの高校から毎年コンスタントに10人を超える合格を輩出する。受験競争の勝者として脅威的な数字である。

この進学校の合格者は中1の成績から常にトップ（学年の1割キープ）を保ち一度たりともトップを落ちることなく一貫6年を走っている。

「我が校というと理？トップ合格数がステータスだがな」

理？（医）の合格ラインに到達しない生徒は学内の進学指導は受かる可能性から理工学部や農学部に進学変更を余儀なくされていく。

医者になるための理？受験生から見たら大変な都落ちであった。

ともすれば劣等感に苛まれてしまう。

父親も医師が大半。医師でなくとも大学教授や弁護士・税理士・経営コンサルタントと知的職業オンパレードがこの進学校のPTA。

成り上がり政治家や苦節成功の社長と社会的地位が鈴なりである。

中高6年一貫は学費と学習塾にエンゼル係数が高められる。

我が家の大切なお坊っちゃんも勉強に勉強をしてしっかりした学力をつけていく。

日本最難関な理？へ！

または有名大（医）へいざ進学せんである。

「先生つ僕は明日から家族と欧州旅行です。理？の合格発表までロンドンとパリで過ごします」

理？受験生は私大医学部は合格している。理？に受かる前に入学手続きは済ましてはある。

父親や祖父と同じように医師への道は開けている。

担当教師は羨ましいなあつと口を開けた。

「合格のご褒美は欧州があつ」

世界史の学習ハプスブルク家やローマ帝国の遺跡を訪ねてくる。

「うんうん海外なら日本で破目を外す可能性がないだけましたなアツハハ」

医者になってしまえば

海外旅行だろうが

長期バカンスも

好きになるであろう

「しがない高校教師から見たら医者稼ぎ額は”雲泥の差”だけだなあ」

中年の教師が愚痴を溢しても埒はあかない。

「よしっ解散しようか。現役も卒業生もよく頑張りました」
理?の合格発表

進学校にしても進学率の高さを知るは楽しみに待たれる。

トップクラスに在籍をした我が家の大切なお坊っちゃんたち

しっかりした学歴をつけがため

有名大学医学部へいざ進学である

入試日から約2週間後に合格発表はある。

答案用紙に悔いなく解答した受験生もそうでなくても
泣いても笑っても

2週間の楽しみである。

理？？合格発表

東大合格発表である。

東大の代名詞”赤門”に受験生と父兄の姿がある。

朝早くから受験生は伝統の赤門が開門されるを待ちきれないと溢れていた。

「うわっくさすが東大だな！マスメディアが騒ぐやあ」

テレビ局の中継車がずらりと東大正門前の通りに並ぶ。

「東大合格者の喜びを毎年テレビ各局が生中継するらしい」

受験生はもちろんテレビ中継は昨年度を見て知っている。(You Tubeでも見えた)

可愛いらしい女子アナがちょこんと立ち発表前に受験生にマイクを向けていた。

「朝早くからいらっしやいます受験生のみなさんです」

インタビューする女子アナに日本有数進学校のネームバリューは絶大である。

受験生は高校名を誇らしげに告げインタビューに答えている。

「では発表の定時になります。文？から合格発表をいたします」

東大職員が手際よく白い合格発表用紙をサアツと開いていく。

合格者は目をしっかりと見開き掲示板にある受験番号を確認する。

キヤア

あつた！

あつた！

やったあつ

いつもある大学合格者の喜びの瞬間である。

「文系（？・？・？）から発表か。いいなあ文系は。早く（合否がわかって）楽になれて」

理？は東大の真打ち登場である。

最後の最後にサアツと90人定員が張り出されるのである。

キヤアキヤア

ざわざわ

ざわざわ

合格発表の掲示板は喜びの四千人余が新東大生となっていた。

「さあつ理？だけ。テレビクルーは90人全員の素顔をカメラに収めるんだ」

女子アナがマイク片手にスタンバイする。

私大文系出身のアナウンサーはすっかり東大というブランドに酔っている。

「理？だなんて。エリートの中のエリートだもん」

東大合格でもエリート意識というのに

医学部である。

難関大学の最難関学部

「私もどんな子が理？に合格しているのか早く知りたいなあ」

報道機関のアナウンサーより俗っぽい興味から見なくなる。

「では最後に理？の発表に移ります」

大学職員は短めな合格発表の白いロールを取り出した。

小さな小さな掲示板に張り出した。

全員合わせて90名である。

最難関の医学部はたったの90名であった。

受験番号は1番号から続けて合格者を輩出している。

進学校の教師はわざわざ神戸市から上京し直接に東大入試窓口に本学の受験生を順番に手続きを済ませている。

「凄い凄い！」

女子アナだけでなくテレビクルーは驚く

受験No.1からNo.16まで綺麗に合格をされていて欠番はなかった。

(No.17が不合格)

受験18番号から再び合格者はズラリと並んでいた。

やったあつゝ

受かったあゝ

合格した受験生が絶叫する

高校の教師が万歳三唱！

予備校の関係者が掲示板をメモしながら受験番号に追随し喜びを表す。

「おめでとつ」

理？にある90人の合格者に悲喜こもごもなことであった。

「よし！我が校は…19…20…21」

毎年15人前後の合格者を輩出するエリート進学校がさらに躍進している。

進路指導の教諭は我が校の合格者数の多さに胸がわくわくしてしま
う。

「20人を越えての理？合格者だな」

こりゃあ教頭と校長に胸を張って祝福の報告ができる。

PTAに威張って報告だ

「他の東大理系も昨年度を上回った合格者輩出だ」（新聞記者の速
報値）

今年の3年はいたって質が良かったな。

「よく受験生は頑張ってくれた」

ライバル校の動向が気になるところでもある。

「しかし我が校始まって以来の20（の万台）なんて信じ難いな」

教諭はメガネを前後ろにやり掲示板に焦点を合わせてみた。

あまりに喜び過ぎて残念ながら受験番号を数え間違いもあった。

掲示板に合格者が出ると喜ぶ受験生を片っ端からテレビ局のスタッ
フが90人全員の合格者（出身高校名）を聞いて回った。

「（進学校の）先生でいらっしやいますか。私は東京のキー局女子
アナでございます」

テレビのワイドショーである。全国ネットの生中継だとマイクを向けられる。

うん！

テレビ局がインタビュー？

進学校の教師はニヤリとした。

「あえて私にインタビューをするということとは」

理？の合格者が大量（20超）だった証しだなぁ（早合点）
胸を張り女子アナに向き合う。

「ハイハイ。インタビュー快諾します。ひょっとしたら我が校はN
O・1になりましたか」

女子アナはきよとんとしてしまふ。

理？トップ？（昨年度も1位）

東大トップ？（昨年度は3位）

女子アナはなんだかんだと忙しくウロな返事をしたのみ。

「学校の皆さんはよく頑張ってくれましたね。先生がたの努力の賜物ではないでしょうか」

進路指導？

受験生の努力

「我が校は最高記録20人合格者でございますか」

最高記録？

女子アナは進学校の教師であると知らなかった。

なんのことかっときまぎするばかり

「なんだ！会話がギクシャクして（滑っている）」

担当ディレクターはカメラの切り替えを命じ女子アナを引き上げさせた。

「合格した受験生をインタビューしてくれ」

ごった返す合格発表の場である。

喜びでいっぱいな新東大生をキャッチしてくれ

「ハイわかりました」

90人の合格者をインタビューしてくれ

最高記録？

女子アナは初耳な情報を嫌った。

なんのこと？

どぎまぎするばかり

「なんだ！会話がギクシャクして（滑っている）中年なんかダメダメ！」

担当ディレクターはカメラの切り替えを命じ女子アナを引き上げさせた。

「合格した受験生をインタビューしてくれ」

ごった返す合格発表の場。

喜びでいっぱいな新東大生を片っ端から”キャッチ”（インタビュー）してくれ

「ハイわかりました」

最初のインタビューは失敗しちゃった

舌をペロリと出した

ワイワイと歓喜の渦を見た女子アナ。受験生はあまりにも狂喜乱舞をして平常心には見えない。

「マイク向けても”まともな答え”が期待できないなあ」

泣き叫び

髪の毛をくしゃくしゃ

親御に抱きつく光景

「あんな子にインタビューしたら」

再びギクシャク失敗しそうだ

ぐるぐる

ぐるぐる

女子アナの経験からこの子にインタビューしたら

”よい画”が取れる！

「いたわっ！あの子にするわ」

合格発表の掲示板をじっと見つめている。

比較的無表情な顔つきは落ち着きが感じられていた。

「じわじわと”難関な理？”をクリアした喜びを実感してもいるのであるっ。

女子アナはマイクをギュッと握りしめカメラマンを手招きした。

うん？

マイクが目の前に出てくる。

「細い女子アナの腕から”落ち着き払う”受験生にヒョイツと伸ばされた。

「ギョッ！（なんだ！）マイク」

ギクッ

ピクッ

受験生は目をひんむいて驚く。

「（理？合格）おめでとございます。どちらの高校でございますか」

女子アナは可愛い女の子である。

はあっ

女子アナの笑顔に頭の中はぐちゃぐちゃとなり

パニック！

マイクの前の受験生

手に握りしめる不合格の『受験番号17』をそっと隠してしまう。

「ハッハイ僕は」

エリート意識抜群な高校名をすらすらと名乗った。

「あらあらっ」

エリート好き

収入のあるプロスポーツ好き

それが局の女子アナである。

これはこれは大変な進学校に当たりましたわっ

小さな胸がトキメイテしまう。

マイクを向けた女子アナはマニュアルにある通りに”受験番号17の受験生”に合格の喜びを尋ねる。

インタビューは時間にして数十秒だった。

「よく(受験勉強を)頑張りましたね。素敵なお医者さまになってください」

インタビューというよりは女子アナひとりが一方的にしゃべってしまっただけである。

「はあっ」

女子アナは次々に受験生を掴まえて”合格者”の喜びをお茶の間に伝えていく。

それは単に流れ作業の一環というもの。

進学校の名はテレビ画面でインパクトである。

当然に視聴者はテレビのワイドショーに釘付けである。

「今インタビューされたのは我が校の生徒です。校章の襟に記章がありました」

顔つきから”医薬特進Aクラス”の生徒でございます。

「今年の理？は素晴らしい。東大全体にも指導が良かったんだね。例年を上回る合格者だなっ」

留守番をする本校は早く週刊誌の『東大・京大』合格者の発表が待ち遠しい。

東大正門にいる引率教師が生徒を気遣う。

「合格した生徒は頑張った」

好成績をあげた生徒を褒めてあげたい

あくまでも合格者である。

不合格の生徒は視野にないのである。

力及ばないまま来年頑張れよっのヤツもいる。

「気落ちも早めに切り替えて新年度を迎え入れなくてはならない」

捲土重来けつどじゆうらいは予備校で浪人が

しぶしぶ滑り止め私大へいくか

悲喜こもごもな受験生を引率しての教師は人数を確認し新幹線新神戸駅に戻るのである。

理？？虚しさ

不合格を知ってまだ余裕のない最中に東大本郷から東京駅（新幹線）に向かう。

リンリン

ポケットの携帯が鳴った。

「ドキッ！」

送信者は

お父さんか

お母さんか

息子としては父親には始めに”理？不合格”を伝える覚悟である。

「もしも母親だったら……」

いつも優しく穏やかな笑顔の母親。こんな女性に不合格の事実を言い出せないであろう

リンリン

着信履歴を恐る恐る見る

うん？

ホッとした。

医院のお手伝い（婆や）さんである。

「婆^はあやゝか」

ばあやなら僕の味方だ。

ふうゝ

一息をついて携帯を出た。

「もしもお坊っちゃま。聞こえますか」

医学部を期待しているお父さんにはまだ”理？の合否”を伝えないのでおきたい。

なぜかホツと胸を撫で下ろした。

婆やなら安心である。

「僕は東京駅に向かうよ。予定の新幹線に乗るよ」

極力明るい雰囲気を出して医院のお坊ちゃんにカモフラージュした。

ポケットから乗車券と特急券を取り出し確認した。

「さいでございませうか。神戸のご帰宅の時間は間違いないでございませうね」

ばあやは腕によりをかけて料理いたしますわ

「お坊つちやまの大好きな天麩羅です。いえいえ豚カツを用意致しますわ」

医院のばあやは長年お手伝いさんをしている。

医院に待望の長男が生まれる頃から奉仕するお手伝いさんであり乳母でもある。

いやっ！

育ての親そのものである

「あっ！ばあや」

”僕は東大落ちちゃった”

婆やには言いたくなってしまう。

ぐつと堪えて携帯を切るのである。

「私学の医大なんか…入学したくないなあ」

クラスメイトが理？で医学を学ぶというのに私学で学ぶのは…

東京駅の広さは想像以上で往けども往けども人混みが絶えない。

新幹線を探しコンコースを歩く。

「僕は落ちたんだ」

ふらふらと右へ左へ。

「僕は理？を落ちたんだ」

ざわめきでも落ち込んだ心はすぐれない。

「落ちたんだよ」

ショッピングモールやレストラン街が並ぶコンコースは長い距離である。

「僕は東大に落ちたんだ。ダメな受験生なんだ」

敗北者というレッテルが貼られてしまった。

下を向けば

ポロポロ

悔し涙がこぼれて止まらない。

「帰ったらお父さんになんと言おうか」

悩みはそれである

”理？はダメでした。お父さん浪人をさせてください”

理？に行きたいんです

”もう一度受験して合格したいです”

もう一度？

「浪人したら予備校に通わなければならないのか。またあの無意味な受験勉強を繰り返すのか」
「バカらしいなあ」

進学校のクラスメイトは理？の1学年上の先輩になる。

医学の勉強を始める。

「1年の遅れがあるけどなあ」

浪人しても合格する保証はまったくない

「浪人は博奕ばくちになりそうだ」

進学校6年一貫持ち上げのクラスメイトのライバル。
理？合格者の顔が一人一人浮かぶ。

「僕は負けたんだ」

世に言う受験戦争に参加をして敗けた。

学内の成績が良かった。トップクラスで悪くなかったではなく

” 敗けたんだ”

不合格は受験戦争の敗北である

理？に戦いを挑んで敗けてしまったんだ

我が身は敗戦を味わう兵士なのだ。

コンコースをふらふらして新幹線までの時間を潰してみる。

新幹線が列車事故に遇い多数の死者に見舞われたら

列車事故ならニュースになる。

神戸の医院にもテレビニュースで知るだろうなあ

「ああつく嫌だなあ〜帰りたくない。お父さんに会わせる顔がない」

胸底むなぞこから不合格の悔しさがこみあげてしまう。

事故に遭わないかと思いつつ新幹線の席によいしょっと座ってシヨボンとしてしまう。

車窓を眺め高校生らしい元気や覇気がない。

ぼんやりとしたまま出発の時間を待つてしまう。

理？？？さあ困った

東大本郷は合格発表の騒ぎの真っ最中である。

テレビ中継のためしゃしゃり出て女子アナが合格者インタビューに走る。

「合格おめでとございます。(学部と高校名を)教えてください」
エリート進学校に当たると女子アナは張り切る。

「まあ有名な進学校ですこと」

より張り切ってスカートの裾をフリフリ。マイクの声が弾んでしま
うのである。
あなたは？

「まあっ(神戸の)進学校！(理？に合格は当たり前の)有名な」
10人ぐらいにアトラダムなインタビューをしたが日本有数最も
有名な進学校と思いきや興奮してしまっ。

インタビューを受けた受験生は進学校の名を告げた。母校がテレビ
に出て…

手元にある”東大理？・受験票No.17”をギュツと握りしめた。

昨年も東大合格者として先輩がインタビューを受けていた。

高2の時に”来年は僕は東大生としてインタビューされている！”

女子アナは香りのよい香水が漂っていた。

マイクが差し出されたら反射的に…

「不合格の象徴・受験票No.17」

これを”汚点”を隠したいのである。

可愛い女子アナには見せられない。

もしかしたら

可愛いらしいお姉さま女子アナが気がついたら困る。

”あなたって？本当に理？に合格していますか？”

私が確認してさしあげますわ

インタビューを受けながら

”受験No.17”の紙切れは手のひらの中で汗まみれとなりぐちゃぐちゃであった。

受験No.17番号の受験生は進学校の生徒を張り切って名乗る。

学校のネームバリューからバツチリとワイドショーの画面に”理？合格者”のひとりとして映ってしまう。

女子アナは受験生のようすに怪訝けげんさもなく流暢なインタビューをこなす。

時間にして数秒間の出来事である。

「合格おめでとうございます。立派なお医者さまになってください」
立派な医者になる？

そうだ！

私大医科には合格をしているんだ。

医者にはなれるよ。

嘘ではないさ。

女子アナは忙^{せわ}しく次々に受験生を合格者をつかまえなくてはならない。

受験No.17のインタビューは一塵の風のごとく終わった。

インタビューをされて

合格者として

理？の合格者となって

テレビに映ってしまった。

「テレビ局が間違っ^ててインタビューしたんだ。ひょっとしたら」

悪いのはテレビなんだ。

僕は…

理？は不合格ではないのかもしれない。

再び合格発表の掲示板を見つめた。

「東大の掲示板は特殊なのかもしれない」

最難関なことで有名な理？は合格発表を二段階で行っているのかもしれない。

（最優秀と優秀）

本日は優秀な合格者だけを掲示である。

（僕は最優秀な合格者なんだ。二段階の合格発表に名前があるんだ）

ぐちゃぐちゃにした受験No.17を開いて眺めた。

すると

不合格した悔し涙がこぼれて来なくなった。

「インタビューしたあのお姉さんの言うように」

僕は理？に…

落ちてはいない

合格者になっているのではないか。

毎年100余を越える東大合格者を輩出するエリート進学校である。

合格する特別な枠があるのかもしれない。

だが…

「僕の周りにはクラスメイトの誰も寄ってこない」

理？”合格”は特別な存在であるわけだ。

クラスメイトは引率してくれた進路指導の教師の元に集まっていく。

理？を合格した喜びを分かち合っていた。

同じ理？を受験したクラスメイトと一緒に視線が合った！

「…」

合格者と不合格者

勝者と（受験の）敗者

東大生となり人生を謳歌できるクラスメイト

非東大が決まった男

明暗ははっきりと現れてしまった。

「中高の6年は勝った負けたのライバルだったヤツだった」

まさかなっ…

学年トップの常連である。

進学校6年キープしていたあいつの成績はトップクラス

しかし最難関な理？は落ちるのである。

まさかなっ…

学年トップの常連である。

進学校6年キープしていたあいつの成績はトップクラス

しかし試験はミズモノだった。

日本最難関の理？は落ちるのである。

受かったクラスメイトは鼻高々という舞台である。

進学校のトップであつても不合格を知り惨めにも東大本郷を去るのがライバルだった。

取り立てて特殊な感情を優越感を抱くこともなかった。

「医学部に行きたいのは僕ら医者の子の願いなんだ」

医学部の中の医学部として理？を第1志望にした限りは日本中の受験生での競いに勝たなくてはならない。

全国の受験生”90人”を常にキープしていかなければならない。

「何も東大だけが医学部ではない。いくらでも大学はあるんだ」

医学部は国立私立を含め80大学もある。

ライバルは心で思う。

「あいつも俺も開業医の長男。私大医（滑り止め）受かっている」

大学を選らばなければ

私大医にはいける。

理？

京大医

国立大でなくても”普通の医学部”で構わないと言って進学してくれ
在籍をした進学校の理系クラスでトップを取ってしまう。

医学部ならば理？か京大医の受験である。

医学部の最高峰を受けることは不文律とクラスメイトにあった。

進学校の生徒は医者の子が大半だった。有名進学校から国立大医学部に入ってもらいたい一心である。

「お父さんは街のお医者さん。開業医なんだ」

地元のみなさまに愛される街のお医者さんである。

「地方の国立大医学部卒業生」

進学校の進路先にはまずならない国立大医学部だった。

大学に受かって苦学する医学生時代に先代（祖父）に目をかけてもらう。

この程度の大学の医学部を出て開業医になるには至難の業である。

先代の祖父は片田舎の開業医で街のお医者さんでひとり娘（母親）がいた。

先代は苦学する父親を跡取りにしたかった。

ひとり娘の婿養子に入って今の開業内科医院をそっくり譲ってあげたいと申し出た。

医学生とは言えサラリーマンの家庭育ちの父親。開業医になれる格好な条件である。

幸せなことには”養子娘”という母親は色白な美人。

政略結婚の犠牲者たる父親の好みのタイプだったようだ。

医院の婿になり跡取りの重責を担う父親。

新婚時代に長男に恵まれ”直系の跡取り”が誕生する。

この男児誕生は先代が大喜びした。

「でかした！でかしたぞ」

自分に男の子がなかったことも手伝ってよほど嬉しかった。

内科医の仕事そっちのけで赤ん坊の世話をしてしまい”小児科”にまで詳しくなってしまう。

男児はすくすくと育ち進学校中学受験を体験する。

詐欺師？〜怪しい女子大生（前書き）

医師免許を持つ正式な医者に対して”准医師”を造り上げたい。

医師とはならぬが”医業”のエキスパートとして君臨させたい。

理？や京大医を落ちたような人材を”准医師システム”に組み込んで育成をしてやりたい。

医師版”トラの穴”は動き出す

詐欺師？怪しい女子大生

東大本郷の合格発表があったその日のうちに東京駅から新幹線に乗る。

”理？（医）不合格の事実”を胸にしての帰省は敗軍の将であり嫌である。

だが取り敢えずは一旦実家に戻り今後を考えていかななくてはならない。

医者のお父さんと

医者のお娘のお母さんと

「浪人して理？を再受験したいかな」

進学校から浪人も珍しくはない。

「行きたくもない私大医学部に泣く泣く進学かな」

滑り止めに受けたあの受験シーンが甦る。

憂鬱な気持ちで座席指定によつこらつと暗い顔で座り目を閉じていた。

「あのうゝすいません」

うん？

若い女の声である。

誰だろう

目を開けた。

座席指定のチケットを手にした若い女が困りますと立っていた。

「あのお尋ねします。こちらの座席指定で間違っていないですか」

間違ってます？

ポケットから座席指定の番号を読み取る。

「あちゃあ〜」

若い女はにこやかに微笑みを浮かべた。

”ターゲット（標的）はこの子供ね。高校生は高校生ね”

女はあらかじめ見せられたターゲットの写真の顔立ちと座席指定の高校生と若干違っているような気もした。

女は失礼しますと断り指定席に座る。

「ごめんなさい。僕は勘違いしてました。席を間違っていましたね」

不合格の落胆からチケットすらも読み間違えたのか。
情けないことだ

座席指定の番号間違いから女は打ち解けていく。

この若い女は元来が気さくな性格であるようで自然な流れで微笑みを投げかけてくる。

若い女は清楚な出で立ち。

東京駅から旅行に出かける雰囲気であり見れば見るほど美人でもある。

チャームिंगな美形であるかもしれない。

だが男子校育ちに第一印象はよくはなかった。

馴れ馴れしいなっ

何者かっ

警戒した素振りである。

が笑顔と美貌と親しみやすさから気が弛み年頃の女性として見ることができた。

「私は女子大生なの」

女子大生？

こと大学名に関して

人一倍敏感な立場である。

現役の受験生は興味津々！

「どちらの大学ですか」

順天堂大学じゅんてんどうです

「順天堂？」

ギクッ

順天堂と聞いて陸上競技”箱根駅伝”と連想はしない。

医学部がある大学ではないか。

「順天堂大学医学部なんですの」

我が耳を疑いたい。

”医学部？”

我が耳の聞き間違いであつて欲しかった。

この美貌の女は医学部なのか。

「あらつ勘違いなさらなくてくださいな。医学部は医学部でもお医者さまの医学科ではないの」

お医者さまではない

順天堂の医学部であると名乗ったのに。

うん？

医学部だが医学部ではない？

妙な謎解きを言う

「アハハツツ考えてしまいましたね。医学部保健（看護）科なの
卒業後はナースさんになるの

保健科？ナース？

医学部は医者だけで成り立つのではなかった。

「保健？なんですかっそれ」

男子校に保健学科や看護科に進む生徒はひとりもいなかった。

「医療関係の学科なんですよ」

” ナースと言えば乗って来るかと思っただけだ”

女の目論見は外れてしまう。

「私ね」

女は身の上話しを始める。

「高校に憧れの先輩がいたの。先輩は医学部を目指していたから」

私も医学部へと思うが学業成績と家庭環境が違っていた。

「だから看護科に進学してナースになろうかしら」と

先輩は医学部に入っているのか。

この女が順天堂なんだから

「先輩は順天堂大学医学部ですか」

女は…

「うっん違っわ。順天堂は私だけ」

違っ！

医学部が違って

理？だなどと言わないで欲しい。

ジイッ

女子大生の口許を見てしまう。

嫌だ！

東大とは言わないでくれ

僕が落ちた大学は嫌だ！

「彼は東京大学なのよ」

二浪し苦勞の末に合格していた。

「私の存在が彼にプレッシャーをかけてしまったみたい」

二年遅れとなった先輩は医学部卒業の目処めいが立てば婚約しようと言ってくる。

「だけど恋愛と結婚することは大きな隔たりがあるわ」

現実に医者の家系であると思えばトーンが下がってしまう。

「彼が結婚するなんて先の話。私が四年生で卒業しても彼は在校医学部つて6年いくんでしょ」

さらに研鑽を積みたいと大学院に行くとあらば

長い婚約期間があれば”振られる可能性”が高い。

「順天堂の看護にいとね」

附属病院の医師やナースの人間模様が如実に伝わってくる。

「私みたいな女が院長夫人になることは無理ってわかったの」

一人前の医者になれば若くて家柄のいい良家の令嬢さまがいくらでも名乗りをあげる。

「大卒ナースの肩書きなんてピュウピュウ飛んでしまいますわ」

医者に対してのナースは禁断の果実である。

遊び心で付き合っても構わない。

だが籍を入れる本妻を望んだりしてはならない。

「なぜですか？そんな無茶苦茶な話しはないでしょうに」

先輩は貴女が好きですっておっしゃるのに

「もういいの。高校生くんには理解できない大人の事情ってやつよ」

僕には理解できない？

この何気ない捨て台詞は医者の子に”カチン！”ときてしまう。

「僕だって医者の子なんです」

好きになった女性がナースであろうが良家の才媛であろうが関係ないのではないか。

女の悩ましい胸元を見て男子校育ちは興奮してしまう。

「あらっお医者さまのご子息でしたの」

しっかりした受け答えから上流階級の家庭育ちは憶測されていたけど。

女は狐ねこみみを被り初耳はつみみだわつとすつとぼけた。

「医者の家系と言いますと」

女子大生は顔をひきつらせる。

”この場でウソっぱちを言わせてしまわなくてはいけないの”

東大医学部ですか？

”東大”

”とうだい”とはつきり聞こえた。

女子大生は東京大学だと言ったのだ。

耳の奥底に大学名はじんわりと残る。

「東大？東大の医学部なんですね」

東大医学部とは…

お父さんのことを聞いたのか

僕のこと？

頭の中を”東大”と”医学部”がぐるぐる回ってしまつ。

「あなたは”東大医学部”の学生さんですか」

最難関な大学のエリート医学生になるんですね

きょとんとしてしまつ。

あからさま

直接的な質疑応答ではないか。

そうです！

『僕は東京大学医学部』

ハッ！

はっきり答えてしまった。

ハッとはしたがブレーキは効かないのである。

我が身を”偽って”

東大医学部であると名乗った。

東京大学医学部

模試や学内試験の受験票には東京大学理？と常に明記をしていた。

「この受験票は東大のものです」

しわくちゃのNo.17がちらっと見えた。

なぜ

なぜなのか

言われてもいないのに

”東大”をこり押しに見せつけてしまう。

「と言いますと。まあっくすごい。東大に合格したばかりなのね」

エリート高校生だものね。

「最初見た時から思ってたの。東大ではないか」

女は妙に”龍の顎”^{あご}を心地よく撫で上げてくるのでった。

「私の先輩はね東大内科分秘を専攻したって言うの」

内科医の父親と科目を揃えたい

「ハツ内科医ですか」

先輩さんは東大にいらっしやるん…ですね。

ゴックン

「素敵ね。私は東大に憧れてしまっわ」

女子大生は身を乗り出して話してくる。

医学だ東大だっ

ウソつきの東大とアカサギを乗せた新幹線は富士山を通過し最初の到着駅名古屋を目指していた。

「いい先生になるんでしょうね」

車窓から富士山がぼんやりと見えた。

詐欺師？～アカサギ（女詐欺）

偶然に”乗り合わせた”同席者はかわいらしい女子大生だった。

高校生から見た女子大生は成熟した女そのものである。

男子校育ち。

”女性に対し自然培養な子供など”いとも簡単”に騙します”

わざとらしく胸の谷間を

チラッ

強調させてしまう。

子供に対し

掎やぶりなセクシーブラジャーをちらつかせる。

知らず知らず

視線がスカートに寄れば

故意に足を組み換えた。

女の武器を活用した初歩的な手口である。ハニートリップ

ドキッ

「エリート校ってすごく勉強するんですよ」

” 中学受験から戦いが始まっているんですもの ”

中高6年でしつかりエリート意識が植えつけられて当然である。

エリートの存在はともすれば疎いところである。

だが

” 子供の取り扱い ” は慣れている。

すぐに打ち解け女子大生は態度が変わってくる。

わざとらしく

さも親しげに振る舞う

大袈裟に笑い声をあげる。

さらに

不自然ながら

矢鱈からだを触ってくる。

「あらっあらオホホ」

上品な笑いを見せて

女の手が足や膝にスウ〜と触ってしまふ。

色気仕掛け？

女性に対して免疫力がない男

まんざらでもない笑みを湛える！

「あらっ嫌だ！私ったら」

ごめんあそばせ

「はしたない女だと軽蔑なさいますかしら」

オホホっ

笑い声は艶かしい

女のしぐさはすべからく

可愛らしい

対面座席では故意にお尻を動かしてスカートの裾に”誘惑”をみせていた。

「まあっお話が楽しいから。静岡ですわ」

車窓から鮮やかに富士山が覗く。

「私は生まれは福岡ですので。富士山は写真やテレビでしか眺めたことがございません」

女は車窓に顔を向けた。

清楚なブラウスから谷間が覗きかわいらしい横顔を見せつけた。

富士山を眺める。

車内販売の売り子の声がする。

「静岡名産のお茶にお弁当、お菓子はいかがでございますか」

お茶や弁当をカートに詰めてやってくる。

たいした空腹感はないが

静岡名産（お茶・ワサビ・うなぎ）を言われると…

「お弁当とお茶。ふたつお願いしたいわ。あらっ浜名湖のうなぎがありますわ」

車窓からの富士山を眺めつつ箸を動かした。

うなぎを頬張り談笑している。

”この子供はすっかり手懐けたわ”

セクシーは女の武器なのよ
リンリン

女の携帯が鳴る。

うん！

バックルを取り出し送信者の名を確かめる。

「ハッ！」

女の顔色がサアッと変わった。トンでもない電話を受けたようだ。

スタスタ

慌てて座席を立ち上がる。

客室間デッキに行く。

「ハイツ私です。あっ…エッ？」

プツン

新幹線デッキは電波の調子が今一つ。途切れ途切れはトンネルも影響している。

「おいつおまえってやつは！どこほつつき歩いていやがるんだ」

厳しい叱責の声飛んだ

誰あろうかつ

ボスだった。

「おまえなあっ」

プツン

ツウツ

かけ直し…

「おまえ新幹線（乗車の列車を）間違っているぞ。カモは東京駅をうるちよろしていやる」

エッ！

プッチン（電波切れ）

間違えた???

「じゃあここにいる”カモ”って」

誰なの？

「誰？その新幹線に誰いやがるのかっ。そいつは何者が知らんが…カモじゃあない」

オイ！

聞いてやがるのかっ

おまえって女は！

「肝腎なときに使えないんだから！バカヤロ」

プッチン

怒鳴り散らすタイミングで切れた。

「カモを間違えたあ？なんだかんだと屁理屈だけ言いやがって」
だから女子大のお嬢様がたは嫌いなんだよ。

「文句を言えばだなあ。能書きだけは立派に返して来やがる」
能書き垂れて

世の中通ると思ってやがる。

「違ってやがるは…（電波障害）…」

プツン

「おまえがいけないんだ！新幹線を間違っつて乗るからだ」

怒鳴りは雷のごとく”雷鳴化”し原爆である。

「ターゲットはよつ。紛れもなく東京駅にいなさるんだ」

列車間違いをしでかした？

新幹線を乗り間違い？

座席指定を指令したのは誰か？

ボスよつ

人違いなの。写真は確かめているのよ

原因はなんなのよ

新幹線の時刻表を見間違えたのか

いやっ

原因など詮索する暇はない。

「奴さんは今から東京駅を乗る。そいつは俺たちがしっかりと確かめる」

二重ミスは許されない。

ひかりの名古屋到着はわかるだろ。

「おまえは名古屋で降りるんだ。奴さんはおとなしく座席指定にあるんだ」

ガミガミ

名古屋で掴まえる

ガミガミ

ミスを繰り返すんじゃない

「偶然があるわけがない」
私が間違っているの？

おつちよこちよいなボスがいつもの癖でミスっているだけかもしれないわ

「だからっ」

座席指定で美味しそうに鰻弁当を食べているのは

「紛れもなくターゲットの東大くんなのよ」

カチャリ

携帯を折り畳み女はため息をついた。

「バカなボスは無視するに限るわ」

化粧室に立ち寄り口紅を塗り直した。

理？？」合格発表だ！」

神戸近郊の開業医院である。

「さあさあテレビの時間ですわ」

お手伝いさんは台所のお菓子を集めると一目散に医院に勤めるベテラン看護師らがいる休憩室へお茶をしに行く。

「朝の忙しさからようやく開放でございます」

歳の近いベテラン看護師とペチャクチャ駄弁ることはストレス解消になる。

「朝のワイドショーを見なくちゃね。新聞のテレビ欄には東大京大の合格発表をやるって書いてあるもの」

進学校に通う医院のひとり息子は院長の跡継ぎになるべくして新春医学部を受験している。

看護師を含む医療職員は全員がワイドショーの始まるのを楽しみにした。

「お坊っちゃんも賢いんですよ。（私大の）医科には合格しているんですよ」

看護師が言った私大医科は私大は私大でも歴史と伝統のある名門であった。

「院長先生（父親）は医科なら私学でも何でも構わない。満足だと

かおっしゃいますわ」

だが…

お坊っちゃんが受験したのは東大であり第一志望の医学部である。

「進学校の中でいつもトップだったお坊っちゃんですもの」

必ず”合格”の二文字を手にするであろうと確信されていた。

「あらっ大変！ワイドショーの始まる時間よ」

ワイドショーの時間。

画面にテロップが流された。

『東大・京大合格！』

東京と京都の二元中継である。

京大の合格発表掲示板が僅かに早く立てられ京都からの中継地が流される。

「へえっ〜東大と京大って芸能人並みに人気があるのね」

お手伝いさんらはお茶菓子をパクパクしながら日本最高峰の大学合格発表のシーンを堪能する。

ヤッター

合格したあゝ

受験生の歓喜の声は会場いつぱいに響きわたる。

「まあっ皆さん大喜びであること」

東大の合格者

京大の合格者

掲示板に学部（京大）や受験区分別（東大）にどんどん張り出されていく。

各局の女子アナは合格者を片っ端からインタビューし喜びをお茶の間に届けようとする。

東大理？が最後に発表される。

「おやつ？」

あらっあらっ

休憩室のみんなが声を挙げた。

みんながみんなテレビ画面に釘付けとなった！

日本有数な進学校の制服は見間違えることはない。

「お坊っちゃん？お坊っちゃんが合格発表のインタビューを受けてるわ」

医院は大騒ぎである。

合格したわ〜

「きゃあ〜お坊っちゃん東大に合格したわ」

きゃあ〜

きゃあ〜

テレビは医院のひとり息子を東大の合格者としてインタビューされていた。

理?の合格者として…

「奥さまにお知らせしなくては」

お手伝いさんは廊下を転がるように走った。

ひとり息子の合格（誤報）の知らせはこうして伝わってしまう。

（運のよいことだ）

父親は泊まり掛けで箱根の日本医学学会に出席していた。

テレビのワイドショーで東大合格を知る医院の人々は自慢話をしたくなる。

入院患者さんは言うに及ばず

「エッ！東大に合格されたの」

近所のおばちゃんたち

瞬く間にひとり息子は新東大生に奉りあげられていく。

当の本人からは”なんら音沙汰”がないというのに……
この医院は神戸近郊の片田舎にある。先代（祖父）の代から信頼のおける街医者として医院はあった。

「3代目にしてついに東大医学部に合格されたのか」
人口10万に満たない狭い街。ほとんどの市民が”3代目東大合格”の誤報を知ってしまった。

またひとり息子が通う進学校も騒ぎである。

ワイドショーの合格発表は高校生の春休みであった。
在校生や教員はテレビを見ていたら”誤報”のインタビューを見て知ってしまう。

後日に高校の進路指導が首を傾げてしまう。

「ワイドショーでインタビューを受けた生徒は確かに我が校の卒業生だろう」

制服は進学校のもの。録画されたワイドショーの画面には3年の特Aクラスの記章まではつきり読み取れる。

当然に氏名も卒業年度も進学校では把握をしていた。

「理？を合格したんだな」

女子アナのインタビュアーは”よい医者さんになってください”と締めくくっている。

「合格者名簿に受験No.17がない。もちろんその生徒名が掲載されていない」

進路指導を長年携わる教師。どうしたことかと不可解さを隠しきれない。

「本人から学校へ合否を伝える義務がある」

しかし不合格になると恥ずかしながら連絡しない生徒がままある。

本人から直に”理?の合否”を聞いておかなければならない。

さらに...

東大京大の合否。大学当局は名前や高校を公表していない。

「週刊誌の記者が学校に合否の生徒名簿を見せて欲しいと五月蠅い」

学校は商売気質ビジネスモデルなマスメディアなど生徒のプライバシーを知らせる義務などない。

如何せん拒否はできない。

毎年連絡して取材する週刊誌記者は進学校の卒業生ばかりである。

「母校名誉のため喜んで合否名簿を渡してやらなくては」

痛し痒しなところである。

週刊誌の記者は早め早めに取材を申し込んでくる。

” 合否の人数 ” の裏づけなどろくろく取らぬまま公表をしてしまう。

受験 No. 17 は未確認のまま ” 合格者 ” にしてしまう。

「 ワイドショー には合格者として 」

本人が合格を喜んでいたのである。

進路指導は週刊誌に合格者名簿を手渡してしまった。 「 先生ありがとうございませす 」

卒業生の記者は薄謝を置いて社に戻った。

こうして週刊誌は理？合格者が氏名と高校名をつけて発表された。

理？は ” 定員 90 ” ではなく

合格者 91 人

珍しく例年より 1 名多い合格者だったと週刊誌に公表されたのである。

理？？」合格発表だ！」（後書き）

テレビのワイドショーに合格者のインタビューに週刊誌の東大合格者。

マスコミからは理？合格者として扱われてしまう

週刊誌の”誤報・合格発表”は絶大なようで進学校以外では理？に合格し東大生として市民権を得たのである。

本人の知らぬ間に

偽物の東大くんになり医学生となり…

理？？合格していない？

日本医科内科学会は短期的な日程を詰め込みハードスケジュールである。

町医者として参加の院長（父親）は夕飯を取りゆったりと箱根湯本の硫黄温泉につかる。

「ああこの瞬間が至福の時だ。学会のプレゼンテーションは内容が厚く覚えることが大変だ」

温泉地で開催された学会唯一の楽しみが夕飯であり入浴であった。

最先端医療を学会の会議で膨大な英文や独文で長時間読まされては疲れてしまう。

「箱根や湯布院。温泉町での学会は大賛成だな。今後はリラクゼーションを義務づけていただきたい」

温泉の効能は確か。ゆったりとした気分の湯船で全身から疲れを抜き去るのである。

地方にあるローカル色豊かな大学出身の院長はそのまま附属病院に残らず。

縁があつて街の開業医となっていた。

大学に研究拠点を置かず開業しては医学の進歩に遅れがちである。

アメリカや欧州の最新医療をまったく知らぬ町のお医者さん。医療に携わる内科医として患者さんに申し訳ないのである。

箱根湯本でゆったり湯船に浸かるそのタイミング。

時はまさに”国立大合格発表”の時期と重なっている。

学会出席の医師たちは揃って40〜60歳。ご子息が高校や大学受験競争真っ盛りという世代である。

「大学受験生（医学部）ですか。私のところはおかげさまで昨年無事長男が（東大医）済みました」

連日連夜にわたり緊張感のある医学会がお開きとなれば温泉気分である。

湯船の話題はどこにでもある”よき日本のお父さん”である。

「ほおつ先生のところは親子二代で理？（東大）ですか」

並の頭脳と違うんですなあっ

おっと

院長の祖父も東京帝国大学（東大）である。

「親子三代！失礼いたしました。優秀な医系でございますなあ」

院長はドキンっとなってしまう。

親子三代が天下の東大に学ぶ！

我が身の医系家族と比較すると同じ医者でも大きな違いがある。

養父（祖父）は関西の旧制・医科専門（戦時の医学校）

院長（父親）は地方の国立大

東大・京大という旧七帝大医学部。

院長は阪大医学部に憧れがあつたが

いずれにしても遠く学歴も医学知識も及ばないのである。

地方の無名医大の出身院長は東大・京大などの旧七帝大コンプレックスを多大に持ち合わせていた。

「理？ですか」

だから東大医学部って響きは

養父から数え三代めのひとり息子は希望の星である。

我が町の医院では光り輝いていた。

神戸の難関私立中学入試をトップクラスで合格し入試の勢いそのまま中高6年を常に走った。

学年10位以内をキープし理？の受験を躊躇うことなく選択をした。

「そういえば朝のワイドショーがあつただろ。大学合格発表なんだ

らが放映されていなかったかなあ」

東大や京大の合格発表を中継していたはずだ。

「ワイドショーのテレビ局はどこだった？系列の取材記者が箱根湯本にもいるはずだ」

記者をつかまえ放映画をみたい。さっそく学会の会場オーロラビジョンにワイドショーのビデオが映し出されていた。

「ワイドショーは弊社の好視聴番組でございます」

学会のドクターさまのためならいくらでも弊社の番組ビデオは流します。

「おおっ合格発表って。あらまあ東大じゃあないか」

医師の学会。

東大（医・理？）に対するコンプレックス（受験回避や失敗）が先生がたの間に蔓延していそうである。

東大と聞いてのざわめきがあった。

院長としたら

自慢の息子が理？を受験していると言いたい。

最難関な理？に挑戦していることを医学学会に自慢したいのである。

録画画面に女子アナが現れた。忙しく東大キャンパスを合格者の中をマイク片手に走りインタビューをしている。

「こちらは東大も東大。日本1最難関な医学部の合格者発表でございます。世に言う”理?”でございます」

学会の先生がたの視線は医学部の合格者にいく。

受験の王道”理?”に集まった。

「ウチの坊主は来年なんだよ」

理?なら自宅の医院から近いから便利だ。慶応出身の父親から見たら憧れも憧れだ。

「来年受験なんですか。ウチのは昨年の受験でして」

理?は最難関の医学部であり憧れの存在。

国立大医学部受験は東大という高望み。

息子はダメでもよいから東大を受けたい。

万一の際には滑り止め私大医で構わないと家族会議で決めた。

「理?や京大医に入ってくれたら親孝行ですよ」

女子アナは理?の合格者とおぼしき受験生を見つけた。

「おめでとつございます。合格しましたね」

可愛い新人女子アナが突き出したマイクの先には見覚えのある受験生がいた。

院長はグツと身を乗り出した。

「あっ！」

思わず椅子から転げ落ちそうになる。

あれは！

「そのインタビューを受ける子供は」

我が医院の後取り息子ではないか！

「テレビのインタビューを受ける受験生が…」

有名私学の学生服はエリート意識の現れでもある。

「息子だというと」

インタビューは理？を合格した証しである。

やったあゝ

東京大学医学部に我が息子は合格したのだ。

マイクを向けた女子アナのインタビュー。どうしたことが片付け仕事のごとき簡単な受け答えに終わった。

合格したのか。不合格なのか。曖昧なインタビューであった。

「えっ！今の受験生は院長先生の…」

ざわざわ

ざわざわ

「テレビの受験生ですが。先生の息子さんでございませうか」

パチパチ

パチパチ

医学会から理？合格への労いの拍手が巻き上がる。

「いやあつおめでとつ。息子さんは頑張りましたね」

東大に息子が合格されたんだね。

まさかなあ

東大かい？

底辺にある私大医科の間違いじゃあないか（皮肉）

地方医大出身の父親だろ

三流医大のくせに

あの親にして

その息子が

最難関の理？の学籍を射止めるなんて

有名私大や難関国立医出身者は嫉妬し内心面白くない。

「ありがとうございます。息子は（東大に）合格しました」

嬉しいぞ！

ふつつつと父親として勝利者の実感がわきあがる。

「（私大医は）すでに入学金払い込んでいますから」

（有名）私大医でも満足ではないか。

理？がダメで不合格なら進学しても恥ずかしいことはない。

「行く先がある気楽さから（理？を）受験したのでしょう」

『浮かれ気分で息子は合格いたしました。父親として嬉しいかぎりです』

地方医大出身の冷や飯待遇の劣等感。

息子が理？の金字塔によって解消された。

嬉しさの院長は温泉気分も手伝い最高の医学学会出席となっていく。

「おめでとう。息子さんよく頑張りましたね」

普段あまり昵懇にしていない医師から握手を求められる。

地方医大出身のレツテルは息子の力で金箔に張り替えられるのである。

理？？合格していない？（後書き）

院長は医学学会に出席した医師たちに”我が息子の理？合格”を知った。

「院長先生おめでとうございます」

出身医科大学が違って反目するライバル医師からも祝いを言われていた。

地方医科大学の出身である院長は鼻高々となって学会を後にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2145w/>

誤報～医学部は合格したのか？

2011年10月26日13時06分発行